

高度経済成長と乗用車の普及。自動車業界がフルスロットルで時代を駆け抜けていた
1966 年。

米国は大気汚染に苦しんでいました。

そして、それは、日本の将来の姿でもありました。

HONDA の技術者は、大気汚染に苦しむ米国を目の当たりにして、未来を変えることを決意しました

「日本の青空を取り戻せ」

「技術で生じた問題は、技術で解決する」

「将来を担う子どもたちに、きれいな青空を残したい」

これが、彼らの合言葉でした。

本田宗一郎は愛してやまない二輪や **F1** などのレース活動から撤退し、そのエンジニアたちも開発現場に送り込みました。記者会見で、商品化を約束しました。

技術者の壮絶な努力の結果、**HONDA** は、当時、誰もクリアできないと言われたマスキー法

<http://www.honda.co.jp/e-dream/backnum/archive/e-dream01/episode2.html>
(排気ガス中の有害物質を現行の **10** 分の **1** にする規正法) を世界で初めてクリアしました